

第1部 序章

1

1. 計画策定の意義



総合振興計画は、長期的なまちづくりの方針や将来像、その実現のための手段などを、総合的、体系的に示すもので、自治体の最上位計画です。鷹栖町では昭和38年以降、これまで7次にわたって総合振興計画を策定し、計画的かつ戦略的にまちづくりを進めてきました。

平成22年度からスタートした「第7次鷹栖町総合振興計画」では、“みんな 笑顔で あったかす”をテーマに、3つの基本理念、4項目の基本目標を掲げ、自治体経営に取り組みました。

この間、お互い様づくり行動計画の策定による支え合いの仕組みづくり、地域農業者や関係団体とともに策定した「鷹栖町農業ビジョン」に基づく担い手育成などの諸課題解決に向けた新たな取り組み、町民の暮らしを支える各種施設の計画的更新、「鷹栖町まち・ひと・しごと創生総合戦略」による地方創生の取り組みの推進と、着実に事業を進めてまいりました。

一方で、本町を取り巻く情勢は、依然として目まぐるしく変化を続けています。個人のライフスタイルやニーズは多様化し、人口減少や少子高齢化、若年層の人口流出を引き金とした地域活力の低下が懸念されるなか、新たな時代に対応した持続可能な自治体経営のあり方を構築し、強みを生かした意欲と熱意ある取り組みによる地域の活性化が求められています。

平成から令和へと時代がひとつの区切りを迎え、本町においても昭和44年の町制施行から半世紀を経て、次なる50年へと新たな歩みを進めるときです。

第8次鷹栖町総合振興計画は、これまでの計画の成果を引き継ぐべきはしっかりと継承し、新たな時代の流れや鷹栖町が抱える課題に対応した、将来にわたって持続可能なまちづくりを実現することを目指した計画です。主役である町民と支える行政とが共通の将来像を描き、ともに歩みを進めることで計画をより実効性のあるものとするため、策定段階から町民参画のプロセスを重点として進めました。

この計画は、町民の暮らしの質を高めることを追求し、鷹栖町で生活する一人ひとりが幸せを実感できるようなまちづくりを進めるための指針となるものです。

2. 計画の構成



この計画は、基本構想、基本計画、実施計画によって構成されています。

(1) 基本構想

まちづくりの理想像と基本となる考え方を明記し、それを実現するための分野別の方針を示します。基本構想は、2020(令和2)年度～2029(令和11)年度までの10年間を対象とします。

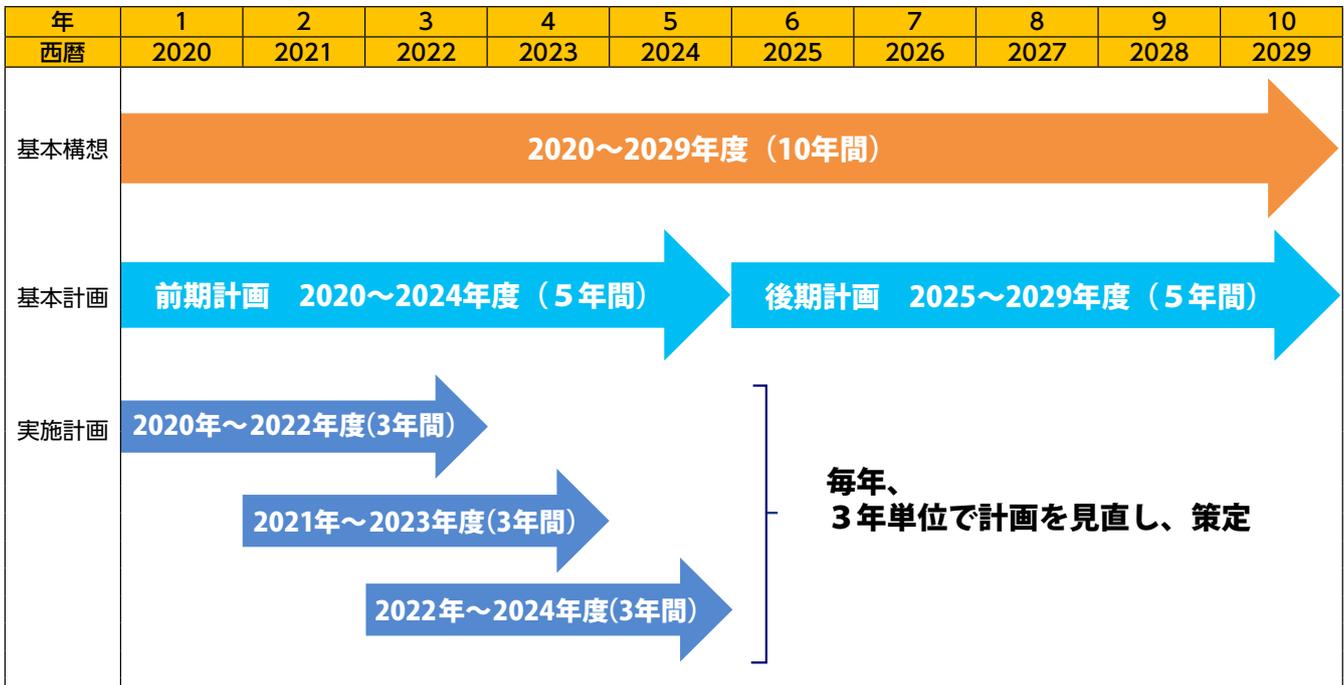
(2) 基本計画

「基本構想」を実現するための取り組むべき内容として、施策の基本的方向を示します。「基本計画」は、社会情勢等を踏まえ5年後に見直しを行います。前期計画は2020(令和2)年度～2024(令和6)年度までの5年間とし、後期計画は2025(令和7)年度～2029(令和11)年度の5年間とします。

(3) 実施計画

基本計画を実現するための個別事業を明らかにし、予算編成の指針ともなるもので、別途定めます。実施計画は、3年単位で策定し、毎年見直しを行います。

計画の構成と期間



3. 鷹栖町の現況



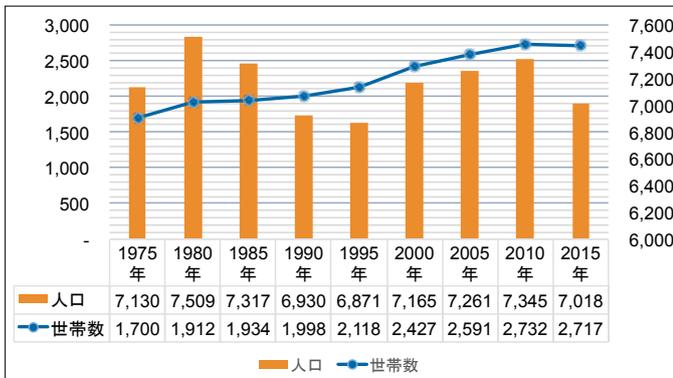
(1) 人口動向

① 総人口と総世帯数の動向及び推計

2015（平成 27）年の国勢調査における鷹栖町の総人口は 7,018 人です。1995（平成 7）年を底に増加傾向にありましたが、2015（平成 27）年は減少に転じました。一方、総世帯数は 2010（平成 22）年まで一貫して増加してきましたが、総人口と同様に、2015（平成 27）年の国勢調査では減少に転じ、2015（平成 27）年は 2,717 世帯です。【グラフ 1】

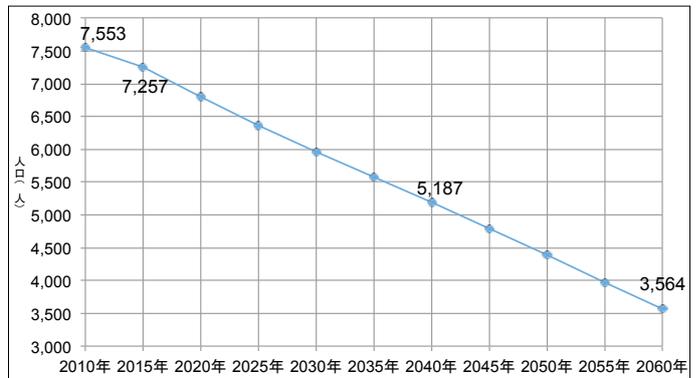
今後は人口減少が続くとみられています。2040（令和 22）年には総人口が 5,187 人まで減少すると推計されています。【グラフ 2】

【グラフ 1】 鷹栖町の総人口と総世帯数の推移



出典) 国勢調査

【グラフ 2】 鷹栖町の将来人口推計



出典) 鷹栖町人口ビジョン

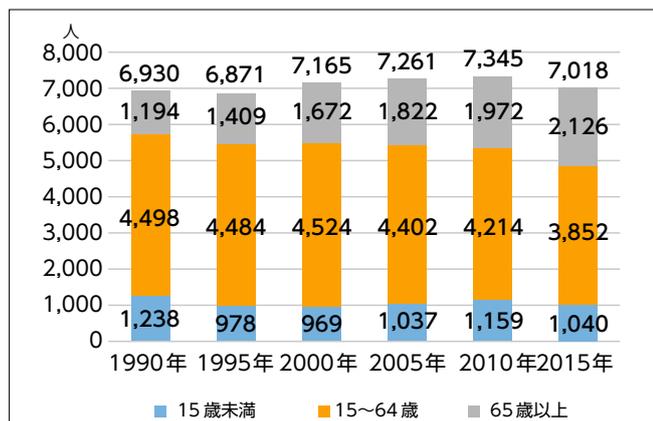
② 年齢別人口の推移

2015（平成 27）年の国勢調査における高齢化率（65 歳以上人口の割合）は、全国平均が 26.7%であるのに対し、鷹栖町は 30.3%であり、初めて 3 割を超えました。一方、年少人口（15 歳未満人口）の割合は、全国平均が 12.7%であるのに対し、鷹栖町は 14.8%であり、鷹栖町が若干高い割合でした。【グラフ 3・4】

2005（平成 17）年と 2015（平成 27）年の人口ピラミッドを比較すると、高齢層人口が増えているのに対して若年層人口が減少し、若年層の負担が大きくなっていくことが懸念されています。【グラフ 5】

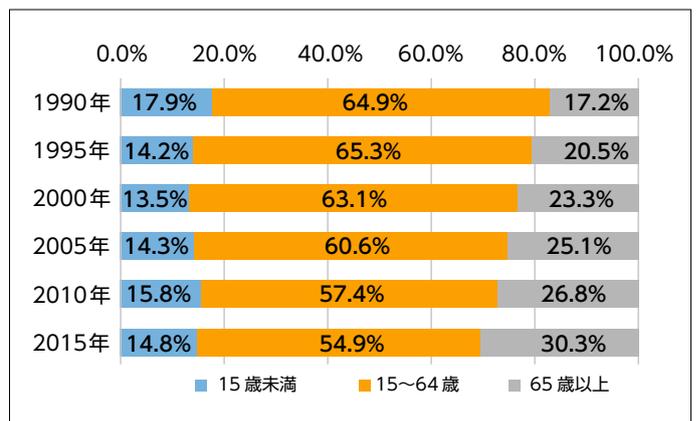
今後の推計でも同様の傾向が続くことが見込まれていて、将来を見据えて人口ピラミッドの適正化を図ることが必要です。

【グラフ 3】 鷹栖町の年齢別人口の推移



出典) 国勢調査

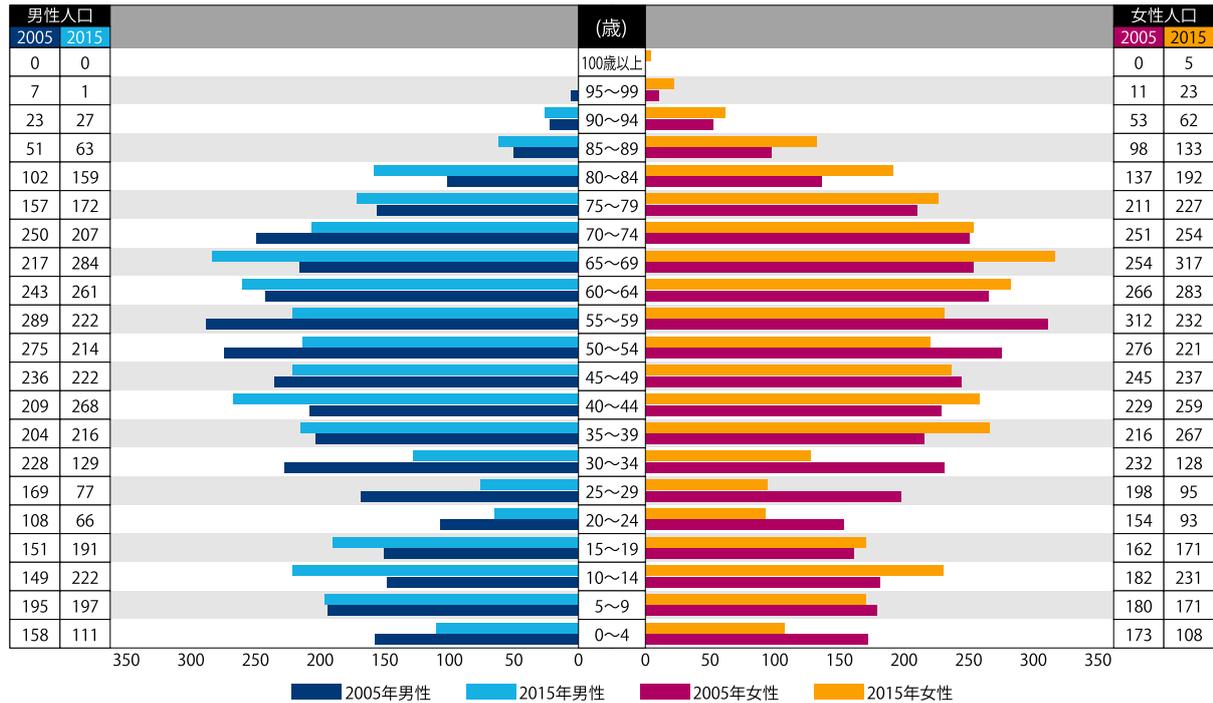
【グラフ 4】 鷹栖町の年齢別人口構成比の推移



出典) 国勢調査

【グラフ5】 鷹栖町の5歳階級別人口（2005-2015 比較）

（国勢調査をもとに集計）



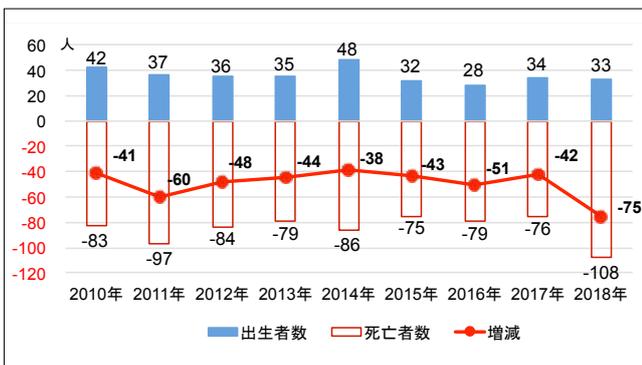
③ 人口の動き

2010（平成22）年以降の人口動態をみると、出生と死亡に伴う人口の動きである「自然動態」、転入と転出に伴う人口の動きである「社会動態」ともに、総じてマイナスを記録し、人口減少の傾向が続いています。2013（平成25）年度、2018（平成30）年度は、社会増減がプラスを記録しました。【グラフ6～8】

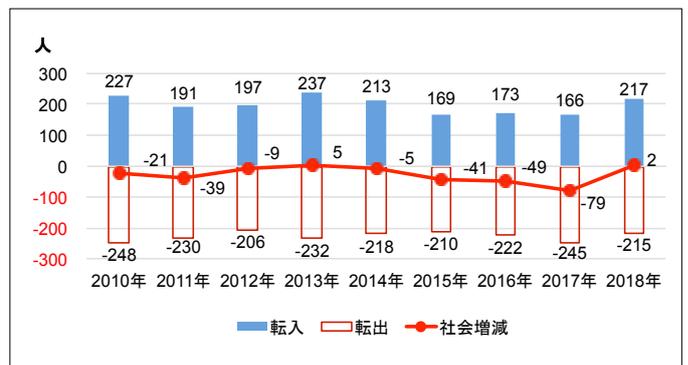
また、本町の特徴として、「出生者数」とその年代が小学校に入学する際の「入学者数」を比較すると、小学校入学時の人数が増加している傾向を見ることができます。【グラフ9】

本町の子育て支援や教育環境が子育て世代に認知され、流入が一定程度続いています。

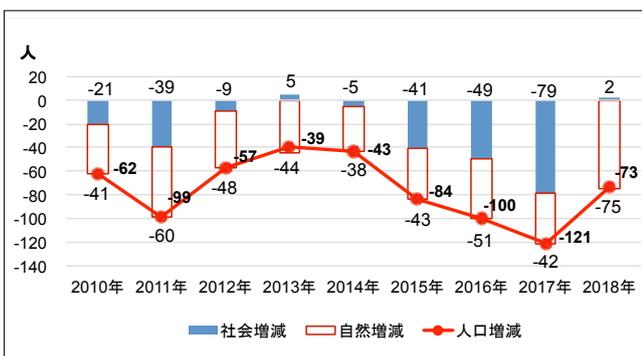
【グラフ6】 鷹栖町の自然増減



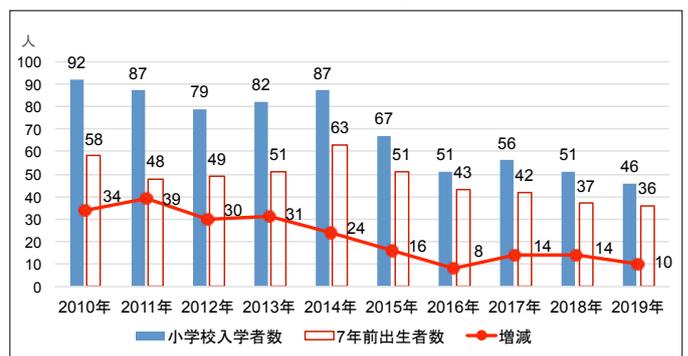
【グラフ7】 鷹栖町の社会増減



【グラフ8】 鷹栖町の人口増減



【グラフ9】 出生者数と小学校入学者数の推移



グラフ6～9の出典）住民基本台帳

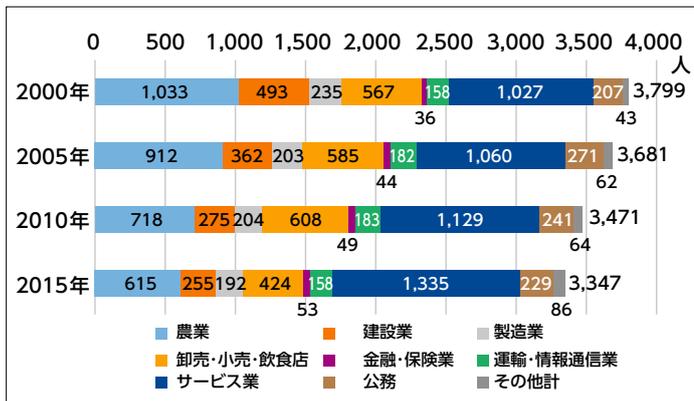
④ 就業人口の動向

2015(平成27)年の就業人口は3,347人で、2000(平成12)年から452人減少しました。

2015(平成27)年を産業別にみると、サービス業が最も多く1,335人で、就業者全体の約4割を占めます。就業者総数は減少しているのに対し、サービス業の就業者数は増加傾向にあり、最も高い割合を占めています。【グラフ10】

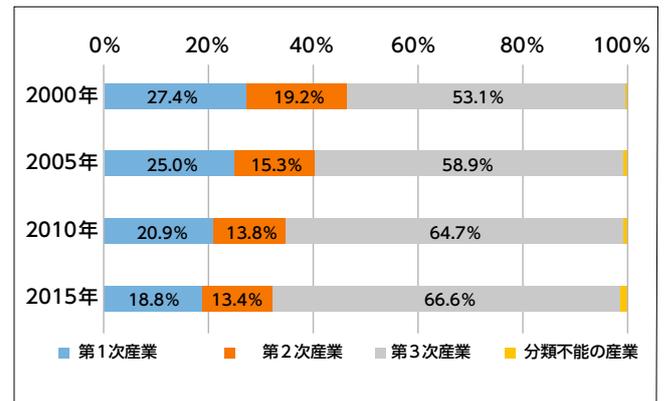
産業大分類別の就業者の構成をみると、第1次産業就業者の割合は2000(平成12)年に全体の3割近くだったのに対し、2015(平成27)年には2割を下回り、18.8%に低下しています。【グラフ11】

【グラフ10】 鷹栖町の産業別15歳以上就業人口の推移



出典) 国勢調査

【グラフ11】 鷹栖町の産業大分類別15歳以上就業者の構成推移



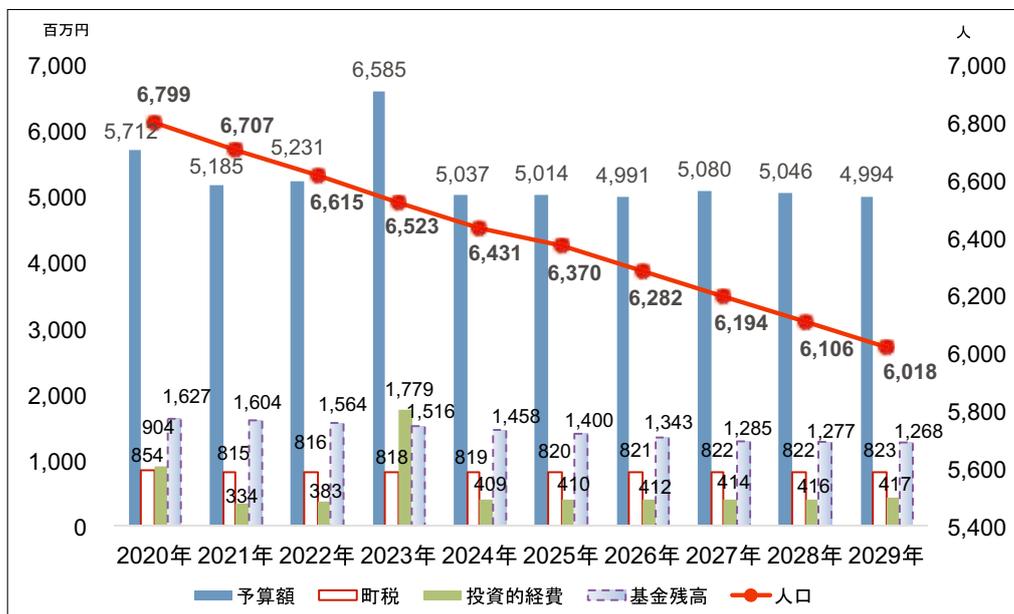
出典) 国勢調査

(2) 財政状況

本町を取り巻く財政状況は、歳入においては、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少により、町税などの大幅な増収が見込めない状況です。一方、歳出においては、人件費や公債費(借入金返済のための支出)の増加、老朽化する公共施設の維持管理や大規模改修など、財政需要を押し上げる諸要因が山積しています。

歳入の大幅な伸びが見込めない中、義務的経費や物件費(委託料や光熱水費等の支出)は引き続き高い水準で増加が見込まれるため、今後は一般財源確保が一層厳しくなることが見込まれます。単年度収支の赤字を基金(貯金)で補う状態も懸念されることから、行政サービスの質の向上を目指しつつ、支出の抑制や効率的な行政運営の取り組みを進めることが求められています。【グラフ12】

【グラフ12】 鷹栖町の人口・財政推計



(鷹栖町資料)

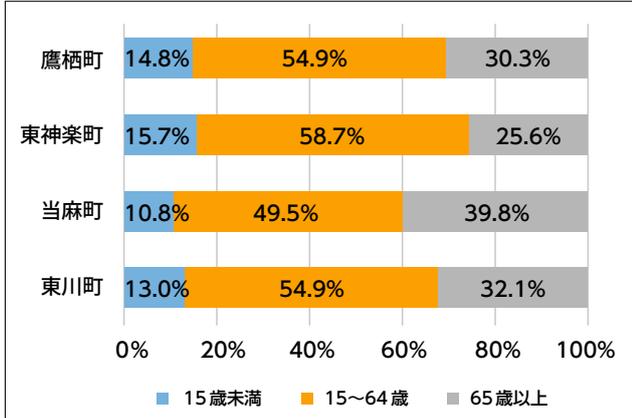
(3) 周辺地域との比較

鷹栖町と地理的条件や人口規模が近い周辺地域（東神楽町、当麻町、東川町）との現状を比較します。2015（平成27）年の人口及び世帯状況を比較すると、人口の年齢別構成比では、東神楽町が最も若く、4町の中で唯一、高齢化率が3割以下（25.6%）であり、鷹栖町は東神楽町に次いで若い年齢構成です。

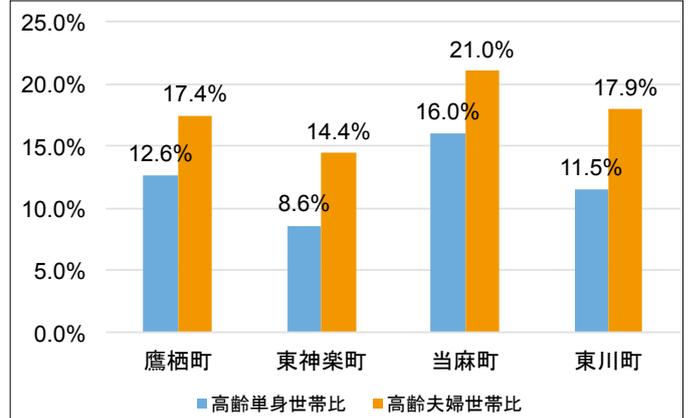
【グラフ13】

高齢夫婦世帯比、高齢単身世帯比は、どちらも鷹栖町は4町の中で中位です。【グラフ14】

【グラフ13】人口の年齢別構成割合の比較



【グラフ14】高齢世帯割合の比較



グラフ13、14の出典) 2015年国勢調査、統計でみる市区町村のすがた2018 (総務省統計局)

産業経済面では、2014（平成26）年の鷹栖町の事業所数は270カ所であり、4町の中で最少です。同様に、2015（平成27）年の製造品出荷額は1,058百万円で、鷹栖町が4町の中で最も少なく、出荷額が最多である東川町（12,752百万円）の8.3%です。

一方、商業年間商品販売額は鷹栖町が最多であり、最少である東川町の2倍以上の販売額です。【図1】

【図1】産業経済、生活関連、教育関連データの比較

	指標	鷹栖町	東神楽町	当麻町	東川町	データ年次
産業経済	事業所数(所)	270	321	336	341	2014年
	従業者数(人)	2,275	3,287	2,255	3,439	2014年
	農業産出額(千万円)	372	335	579	436	2016年
	製造品出荷額等(百万円)	1,058	3,669	6,270	12,752	2015年
	商業年間商品販売額(百万円)	16,664	13,209	8,132	7,769	2013年
生活関連	小売店数(店)	29	47	57	53	2014年
	大型小売店数(店)	0	2	1	0	2014年
	飲食店数(店)	13	25	21	31	2014年
	ごみのリサイクル率(%)	22.9	10.3	9.9	4.4	2015年
	一般診療所数(所)	2	4	4	3	2015年
教育関連	医師数(人)	2	7	3	3	2014年
	保育所数(所)	2	2	1	1	2015年
	保育所等在所児数(人)	152	244	96	189	2015年
	小学校数(校)	2	4	2	4	2016年
	小学校児童数(人)	460	671	289	446	2016年
	中学校数(校)	1	1	1	1	2016年
	中学校生徒数(人)	252	357	178	231	2016年
高等学校数(校)	1	0	0	1	2016年	
高等学校生徒数(人)	115	0	0	235	2016年	

出典) 2015年国勢調査、統計でみる市区町村のすがた2018 (総務省統計局)

4. 策定方法



本計画を策定するにあたっては、町民と行政が共通の将来像を掲げて、ともに進めるまちづくりを実現するため、町民の皆さんと創り上げる住民参加の策定プロセスを最重要コンセプトとして取り組みを進めました。「まちづくりに関するアンケート調査」のほか、住民団体等の皆さんにご協力いただいた「分野別ヒアリング」、さまざまな領域で全国的に活躍する講師から先進的な取り組みを学び参加者同士で思いや意見を共有する「まちづくりセミナー」、地区ごとや多世代など色々な形態で実施した「住民ワークショップ」を行いました。

(1) まちづくりに関するアンケート調査

▶実施時期

2018年8月17日～9月7日

▶対象者、調査方法

2018年7月1日現在で鷹栖町在住の18歳～74歳以下の町民の中から、地区別、年代別、男女別の構成を考慮したうえで、無作為に1,000人を抽出し、アンケート調査票を郵送にて発送、回収しました。

▶有効回答数

471件（有効回答率47.1%）

▶集計結果（要旨）

① 暮らしについて満足度が高い10項目（5点満点、全項目の平均は3.15点）

順位	項目	平均点
1	芸術・文化活動が活発	3.71
2	子どもたちの学校教育環境	3.70
3	安心して出産・子育てができ、子どもが健やかに育つ環境	3.69
4	役場の広報の充実度	3.65
5	ごみの収集、リサイクルの取組	3.64
6	除雪、排雪体制	3.58
6	病気の予防、健康維持活動	3.58
8	農地の整備、集積化	3.57
8	高齢者の学び、交流、余暇活動を楽しむ環境	3.57
10	体育やスポーツに取り組む環境	3.53

② 暮らしについて満足度が低い10項目（5点満点、全項目の平均は3.15点）

順位	項目	平均点
1	買い物などの日常生活の環境	2.11
2	町内で働く場所や働く機会	2.15
2	魅力的な観光の取組	2.15
4	バスなど公共交通の体制	2.52
5	農業・商工業の連携による魅力ある商品開発	2.53
6	働いている世代が学ぶ機会や余暇活動を楽しむ環境	2.72
7	商店街や商工業の活性化	2.78
8	地元の農産物を購入しやすい環境	2.81
9	安心できる医療環境	2.83
10	街路や防犯灯の整備	2.86

③ 10年後の鷹栖町がどのようなまちになってほしいか（複数回答、回答の多かった4項目）

順位	項目	回答率
1	健康づくりや福祉が充実し誰もが元気に暮らせるまち	51.8%
2	安心して子どもを生み、育てやすい環境のまち	48.6%
3	災害や犯罪、事故が少ない安全なまち	39.5%
4	町民が互いに助け合い、支えるまち	32.5%

④ あなたにとっての「豊かさ」とは（複数回答、回答の多かった3項目）

順位	項目	回答率
1	心も体も健康な状態	70.3%
2	円満な家庭、家族の幸せ	45.9%
3	家族や友人との関わりが充実していること	36.9%

（2）分野別ヒアリング

鷹栖町内で活動する、各分野の担当者、代表者等を対象に、ご自身が関わっている活動の現状・課題・今後についてヒアリングし、意見・提案・提言等をいただきました。

▶実施時期

2018年5月～2019年1月

▶対象者、ヒアリング手法

35団体41件、面談による聞き取りで実施

▶ヒアリング結果（おもなご意見を抜粋）

分野	意見・提案・提言内容
まちの将来	<ul style="list-style-type: none"> 鷹栖町で育った子どもたちが、帰ってきたいと思えるまちに。 子ども目線を徹底して取り入れ、子どもを中心に置いたまちづくりを進める。
産業	<ul style="list-style-type: none"> 農業経営継承、土地への思い、農業への思い、引き継ぐことが大切。 多様性を受容することが大切。魅力につながる。 中心市街地、10年後を考えると危機感が大きい。
移住	<ul style="list-style-type: none"> 移住を進めるうえで、「仕事」と「風景」は大切な要素。空き家を活用するべき。 近所同士のつながりの強さが心地よい。見守ってくれている感じがある。
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> 住民力が高いことは鷹栖町の強み。まちづくりの基盤がある。 身近な町内会が中心となって支え合う体制をつくるのが大切。
幼児教育 保育・子育て	<ul style="list-style-type: none"> 産前から小学校入学後まで一つの流れでつなぐ、包括支援センターのような役割が大事。 困り感がある子どもへの支援が大切。
学校教育	<ul style="list-style-type: none"> 鷹栖町の子どもたちはとても素直。幼い頃からの環境が素直さを育てている。 「18歳で成人になったとき、こんな子に育てるんだ」というゴールを、町全体の教育機関が一貫して共有できていると良い。
医療	<ul style="list-style-type: none"> 訪問看護との連携が大切。現状の体制のままでは訪問医療体制は厳しくなる。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> 介護人材の安定的な確保。 高齢者がお金のためだけではなく、自身の健康や社会参加という価値観のために働く環境が作れると良い。
行政	<ul style="list-style-type: none"> 「住民満足」を第一の価値基準として持ち続ける地域社会を行政がいかに目指し、作ることができるか。 地域課題に向き合う覚悟、今できることから逃げない姿勢を見せること。そのプロセスが住民を変える。丁寧なプロセスを踏むこと。そのための遠回りはOK。まちを担うのは地域の人。

(3) まちづくりセミナー

鷹栖町の強みである「人の魅力」「つながる力」を生かし、これからも地域の課題を地域の力で解決していくまちづくりを目指し、様々な分野で全国的に活躍する講師から先進事例や取り組みを学び、参加者同士で思いや意見を共有する「まちづくりセミナー」を全8回開催しました。また、町制施行50周年記念講演会を関連事業として実施し、先進的なまちづくりの取り組みを学びました。

2018年7月21日

徳野 貞雄 氏



「集落点検～他出子(たしゅつし)の
多くは近場で暮らしている～」

2018年9月29日

NPO法人日本コーディネーショントレーニング協会



「学力・体力・意欲が高まる
あったかすなまちをデザインする」

2018年11月17日

山崎 亮 氏



「ふるさとを元気にする方法
～住むまちのことは住む人が決める～」

2018年12月15日

高橋 啓一 氏



「地域一体となった持続可能な
魅力ある農村づくりを目指して」

2019年1月27日

高橋 由和 氏



「笑顔を増やすまちづくり～住民が創る
持続可能な地域運営組織と人づくり～」

2019年9月21日

大須賀 豊博 氏



「“ごちゃませ”のまちづくりを
考える」

2019年9月26日

荒木 秀夫 氏



「脳力&能力アップ!で
人間力を高めるまちをつくる」

2019年11月9日

木下 齊 氏



「稼ぐまちが地方を変える」

2019年8月8日

大江 和彦 氏 (島根県海士町長)



「ないものはない
～離島からの挑戦～」

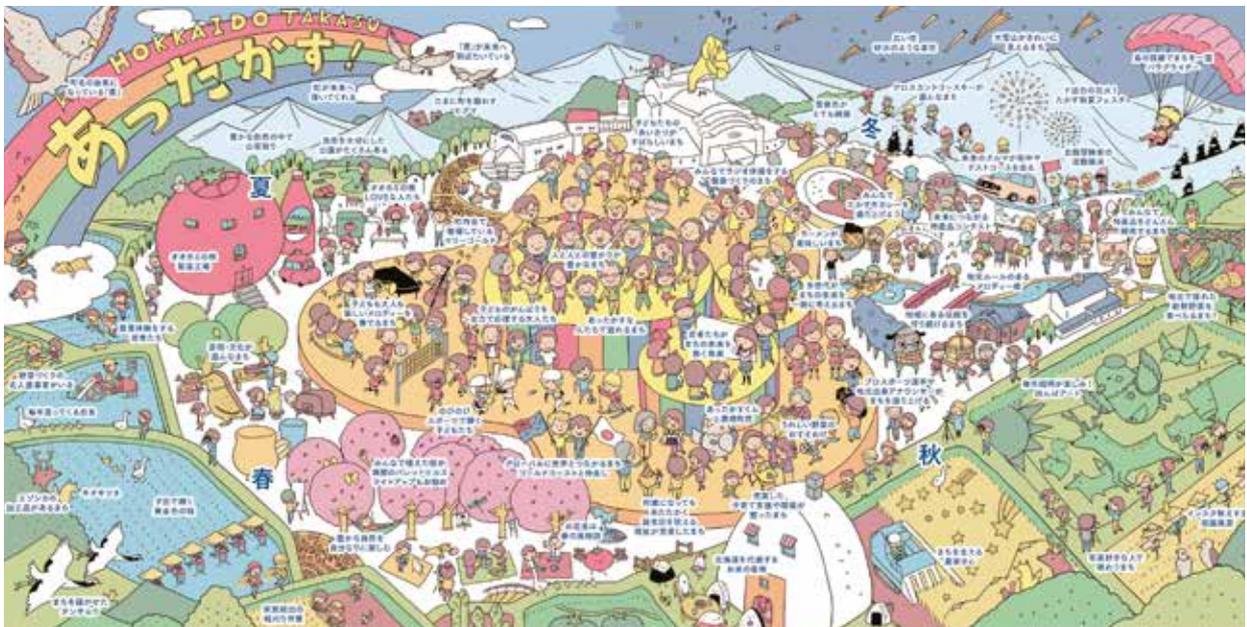
町制施行
50周年記念

(4) 住民ワークショップ

アンケート調査やヒアリング調査で課題として把握してきた事項をもとに、住民の皆さんと議論を広げていく場として、地区ごとや団体ごとなど様々な形態で、ワークショップを実施しました。参加者が少人数のグループに分かれて、その日のテーマをもとに考えや意見を交換し、全体で成果を共有しています。

①たかす未来予想図ワークショップ

パレットヒルズを舞台に、小中高生など若者から子育て世代、シニア世代までがごちゃまぜで、「たかすの未来予想図を描こう」をテーマにワークショップを実施しました。第1回は、地域の魅力をあらためて見つめなおし、「まちの未来」に向けて大切にしたいことについて考えました。この時に出された意見を参考に、長さ4メートルほどの巨大なぬり絵「たかす未来予想図」を制作【下のイラスト】し、第2回はこのぬり絵に参加者みんなで色付けする作業を行いました。



▶ワークショップで発表された意見(要旨)

■「人」が最大の魅力

⇒【未来に残したいもの】

- ・人のつながり、小さな町だからこそ人と人の距離が近い、コミュニティ
- ・子どもたちのあいさつの素晴らしさ、野菜のおすそわけ、近所の方が声をかけてくれる
- ・スポーツや文化活動で活躍している子どもたち
- ・福祉のまち、子育て支援、多世代のつながりと交流
- ・お米がおいしい、おいしい野菜や農産物がたくさん、オオカミの桃 LOVE

②地区ワークショップ

2018年11月から2019年1月にかけて、5つの公民館地区ごとに各3回ずつ、全15回のワークショップに取り組みました。「10年後どのような地区になってほしいか」「地域の資源探し」「地域ならではの理想の暮らし」などをテーマとして、地区のことやまちの未来について話し合いました。

各地区での取り組み成果を、次のページからご紹介します。

鷹栖地区



地区ワークショップで話し合ったこと

■10年後の未来の姿

- ・宅地を増やすのではなく、暮らしを大切に、自然と人が増えるまち。
- ・人とのつながりを大切に、地域で子育てを支える。
- ・コミュニティスクール&コミュニティタウン、住民自らの自助の力で地域づくりを進めよう。
- ・住民自らが鷹栖町の良さを認識し、伝えることで人を増やそう！
- ・10年後、子どもたちの声が身近で聞えるまちであってほしい！
- ・子どもの頃から町の良さを知る教育をして郷土愛を育む
- ・子育て世代と高齢者が、互いのちょっとした困りごとを解決しあう！

■地区のにぎわいを増やそう

- ・飲食店に看板メニューや個性があるように、それぞれにカラーがある多様なお店があることで中心市街地の魅力が高まる。
- ・子どもが安心して利用できるお店、気軽に立ち寄れるスペース。
- ・既存イベントもうまく活用して、日常の「心のにぎわい」につなげよう。大人が夢中になって楽しめるイベントを！
- ・今ある資源をどのように使うか、若い人たちが考え、努力していくことが大切。空き家や空き店舗の活用。
- ・単に「お店がほしい」ではなく、お店が持続しなければ意味がないので、住民参加のお店づくりで、住民とお店とが互いに支え合う責任を持つこと。

地区の魅力についてワークショップでのご意見

① 10線道路



道路沿いに様々なお店。子どもたちの通学路として花壇が整備され、街頭やマンホールもかわいい。

風景

鷹栖町に住む前は気づかなかったが、実際に住んでみると、周囲の風景や静かで落ち着く環境が好きになって、安心感がありとても暮らしやすい。ゆっくり過ごせる今の雰囲気を大切にしたい。

② 鷹栖地区住民センター

図書室なども充実して令和元年にリニューアルオープン。ここを拠点に活動する地区公民館は、住民参加の意識を高めて、住民自らによる地域づくりを進めていきたい。

人

- ・音楽、読書、海外在住の経験などを生かして子どもたちの教育をサポートしてくれる人材がいる。
- ・地域サロン活動など支え合いが強い大成町内会。

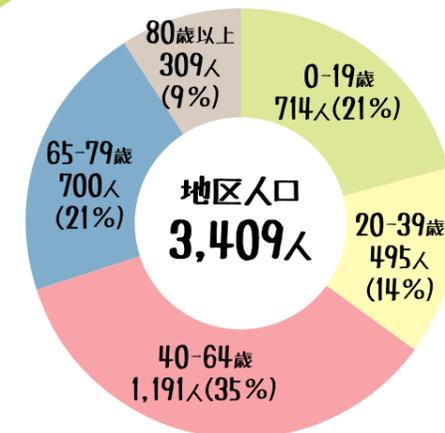


③ 郷土資料館

全道で2つしか展示されていない木管など、貴重な資料が数多く展示されている。先人の努力で今の鷹栖町がある、歴史を知ることが大切。子どもたちに伝える機会など、工夫して活用すべき。

子ども体験教室の新たな企画で、郷土資料館の謎解きイベントを実施しました。

北野地区



地区の魅力についてワークショップでのご意見

① 北野地蔵

鷹栖橋のもとにある地蔵。大正11年の冬にこの地で、通学途中の児童が落水するという悲しい事故があったことから建立されたという。今の子どもたちにも由来をきちんと継承したい。

新鮮野菜直売

地区にあるスーパーのDa・マルシェや、ぬくもりの家えんで、地域のお母さんたちが愛情込めて育てた新鮮野菜の直売がある。

② 地域サロン・地域食堂

多世代や多様な方が交流を深め、つながる拠点。北野地区は暮らしを充実する施設が整っている。

人

文化や音楽、人形劇など一芸を持った方がたくさんいる。子どもたちの教育や活動につながると良い。



③ 北野神社(北野獅子舞)

鷹栖町無形文化財。明治31年に北野神社が建立されたときに奉納された。富山県にルーツを持つ。胴体に入る人数や笛太鼓の囃子が魅力的。

地区ワークショップで話し合ったこと

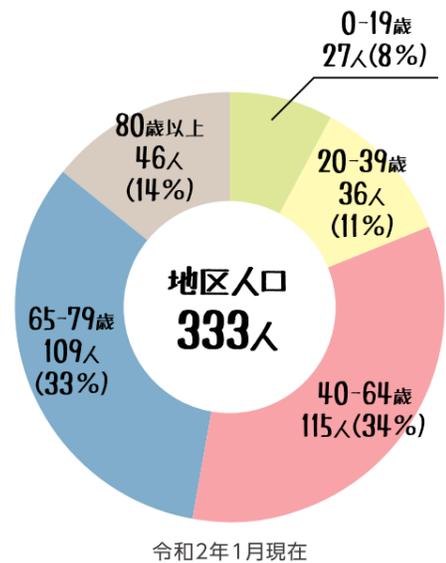
■ 10年後の未来の姿

- ・地域の人々が楽しく交流できる地域に。
- ・顔を合わせて、つながりを大切にしたいまち。
- ・各世代が役割を持って支えあえる地区。
- ・社会で活躍できる子どもたちを育てる鷹栖町!
- ・住宅地と農村地区とが、一体感を持って地域活動を進めてきた北野地区の特徴を生かして、つながりを強く住民活動を活発にしたい!

■ 理想の暮らし

- ・住んでいる町民の満足度を高めることが何より大切。
- ・公民館活動は暮らしを充実させるキーワード。
- ・地域づくりの担い手を育成することが必要。
- ・参加するだけでなく、子ども自身が企画して実現するイベントを地域の大人でサポートする。
- ・地域と行政とで連携して子育て環境を充実し、魅力あるまちにする。
- ・子育てがひと段落した頃に、何かにチャレンジしたいという夢を実現するための支援や環境があると良い。
- ・びんびんころりを目指して、身近に畑がある環境を生かした農作業や、ウォーキングでの健康づくりを楽しむ。
- ・シニア期にはこれまでの人生経験を生かして「子育てデザイナー」「起業デザイナー」などとして、社会的役割を担いたい。

中央地区



地区の魅力についてワークショップでのご意見

① 伝承館

大正初期に建てられた町内の古民家を移築して、趣ある佇まいの室内で、鷹栖町産大豆を使った手づくり豆腐の料理を楽しめる。

景色

大雪山の眺望など、景色が良いところが多い。大雪の園には散策林もあり、景色を生かした散歩コースが魅力となる。

② 旧鷹栖第二中学校

かつては冬季間に遠方から通う子どもたちが寝泊りする寄宿舎もあった。現在は旧体育館を大型の郷土資料を収蔵する郷土資料館として活用している。

人

ものづくり(陶芸、車いす、雑貨など)や登山、トマトやきゅうりなど野菜づくりの名人が地区に多い。



③ パレットヒルズ(蛇山)

昔はよく子どもたちでスキーに行き、頂上付近にせり出した大きな岩を目印に上って、そこから滑っていた。

地域おこし協力で、目印だった大きな岩を探し、発見しました!

地区ワークショップで話し合ったこと

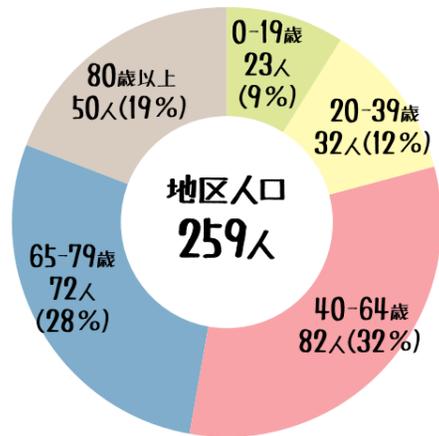
■ 10年後の未来の姿

- ・将来も住み続けたいと思う住み心地の良さが中央地区にはある。今ある魅力を大切に、未来を考えていく。
- ・移動や交通などの地域課題を解決するシェアリング(共有・交換)のまちづくり。
- ・食や農、景観を生かして人が訪れる魅力ある地域にしたい。
- ・田園風景、黄金色の農地(稲作)を守りたい。
- ・施設野菜の農業も普及して、農業が元気な地域に。
- ・農業者と非農業者がうまく共存できる地域。

■ 理想の暮らし

- ・公民館行事は全世代が参加して、つながる地域。
- ・おいしい野菜や様々な名人がいるので、地区の資源を生かして子どもたちに伝承する、様々なふるさと体験を子どもたちに提供。「将来戻りたい」と思ってもらえるように地域一体で子どもを育む。
- ・農業でしっかりと生計がたてられる。
- ・消防団と地域住民とで、一緒になって防災のことを考えて地域力を高める。
- ・視野を広げるため1度町外に出て、学んだことを鷹栖町に戻って生かしてもらおう、Uターン者歓迎!
- ・地域として持続するためにも、子どもたちや若い世代を含めた多世代で支え合う地域でありたい。

北斗地区



地区ワークショップで話し合ったこと

■10年後の未来の姿

- ・住みなれた地域で元気に暮らし続ける。不便になったから街に出て行けではなく、どうしたら地域で元気に暮らせるかを自分たちで考えていく。
- ・若い人も高齢者も働き続けられる場所がある。
- ・子どももシニア世代も元気に過ごせる、今以上につながりが強い地域で充実した毎日を実現。
- ・北斗の強み「団結力・行動力・和気あいあいとした雰囲気」を維持。
- ・新たに人が来る魅力ある地域。

■理想の暮らし

- ・公民館行事は北斗地区以外からの参加も大歓迎なので、色々な地区から参加して盛り上げてほしい。子ども縁日など取り組みを工夫している。
- ・子どもは少なくなったが、子どもが楽しめる資源はあるので遊びに来てほしい。
- ・若い世代が子どもをきっかけに公民館活動に参加して、将来の地域の担い手として地域の活動を支えてほしい。
- ・若い世代とシニア世代とが混ざり合い、互いに支え合いながら暮らすことのできる住宅環境が実現すること。
- ・農業をずっと続けながら、プラスアルファ、誰かの役に立つことをして地域で過ごしていきたい。
- ・公民館(地区住民センター)を拠点としたサロン、介護予防。
- ・交通などの不便も地域の「団結」で解決していきたい。

地区の魅力についてワークショップでのご意見

①とわ北斗

鷹栖町の特産品を数多く販売する“道の駅的な存在”。再生家具工房と食堂も併設する。

食

北斗地区は、かねてから「食」をキーワードに地域づくりを進めてきた歴史があり、料理コンテストも行ってた。今も地域には、農産加工施設「四季の里」やワインぶどうづくり、飲食店などの食資源が多い。

景色

大雪山を見渡す水田風景、夕日を浴びての農作業など、北斗地区は写真撮影に訪れる人が多い、農村ビュースポット！

人

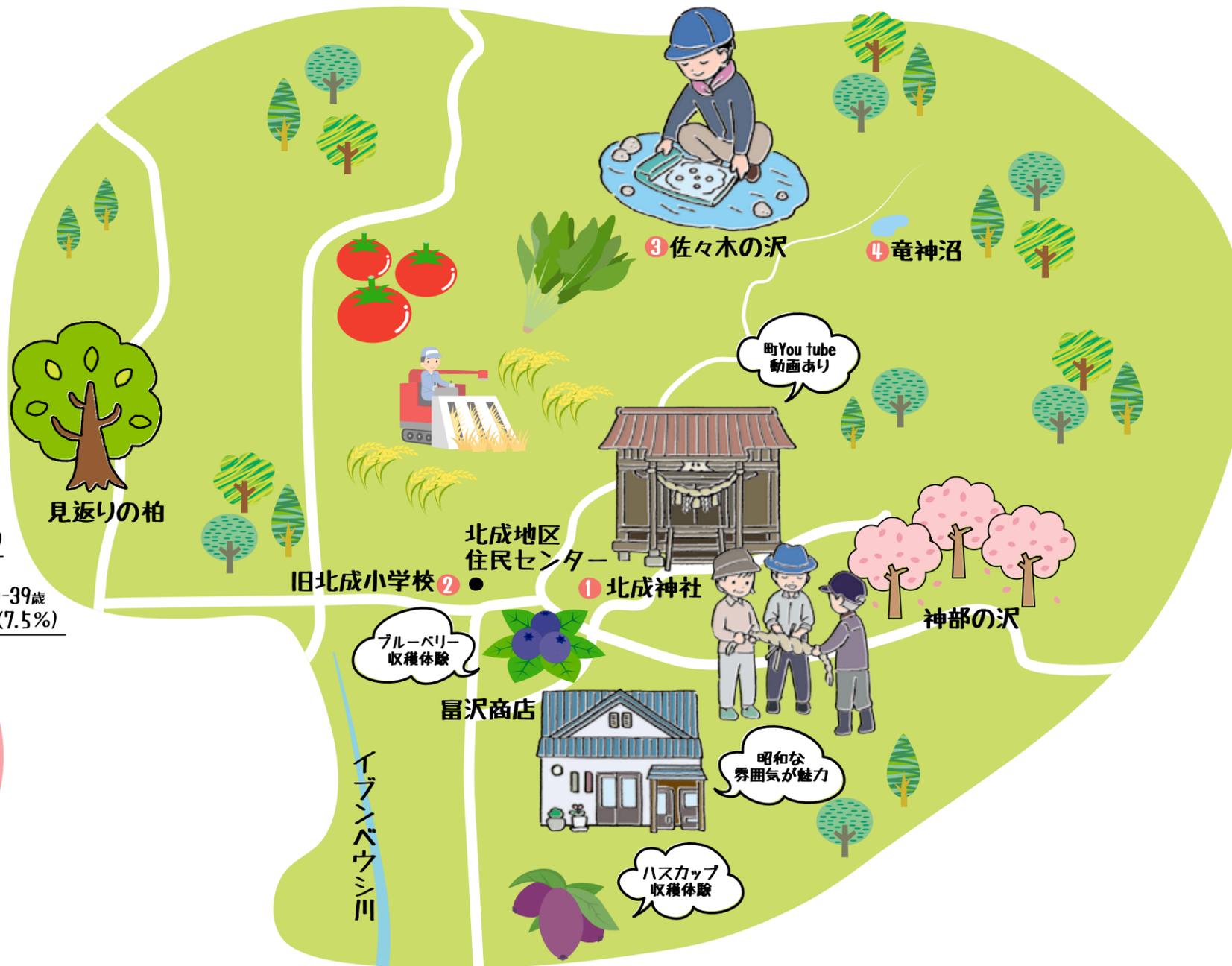
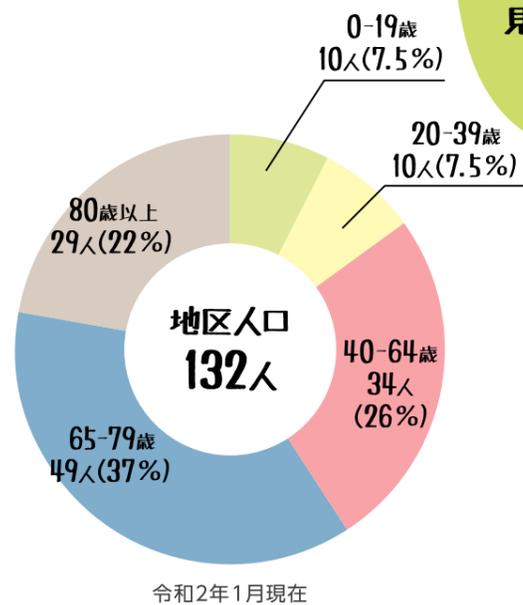
地区の人は「北斗愛」に溢れてよく気が合う、チームワークがある！



②公民館

「祭り乙女」「島中一座」など魅力的な人の支えで公民館行事がとても盛り上がる。「子どもの声が聞こえると地域が元気になる」と、子ども縁日など地区外からも子どもが参加しやすい工夫をしている。

北成地区



地区ワークショップで話し合ったこと

■10年後の未来の姿

- ・おいしいお米がとれる地域の水田を次の世代に渡していく。
- ・地域特性を生かした低農薬の野菜づくりなど、多様な農業基盤のある地域として確立。
- ・お米、野菜、ブルーベリーなどを生かして、30年後に最も農業基盤が充実した地区にしたい。
- ・地域に溶け込む若い人と一緒に、元気な農業を維持する北成。
- ・互いに気遣いできるつながりを生かして、安心して暮らせる北成。
- ・若者との交流促進による元気な北成。

■理想の暮らし

- ・「農業体験+きれいな星空観測」という北成オリジナルの体験を通して、子どもたちに地区の良さを感じてもらいたい。
- ・小学生の子どもたちから「こんにちは」とあいさつをしてくれたことは、本当に感激した。鷹栖町の教育の素晴らしさで、いつまでも大切に続いてほしい。
- ・農業だけでなく、地区の資源をすべて生かして、地域全体でひとつの商社を経営するイメージで、魅力あるしごとをつくり、定住につなげる。
- ・仕事以外で地域のつながりを深めて、暮らしを充実したものに。みんなが仲良く元気に住み続けたい。
- ・周囲を山に囲まれ、水田が広がる、自然豊かな北成地区の景色は、ふるさと感じさせてくれる、ホッとさせる気持ちを与えてくれる特別なもの。
- ・デザイナーなど若者が、新しい地区の姿をデザインしていくことも面白い。

地区の魅力についてワークショップでのご意見

①北成神社

毎年9月のお祭りに合わせて、町内会が輪番で、地域の稲わらを使ったしめ縄をつくっている。

④竜神沼

かつてはお祭りが開催されていた。「見返りの柏」や「馬頭さん」「別れの井戸」などとあわせて、神秘的な要素が点在しているのも地域の魅力。

②旧北成小学校

高台から望む風景は最高。夜の星空もとてもきれい。

人

人のつながりが強い！歳を重ねても元気！野菜づくりや漬物づくりはみんなが名人！

③佐々木の沢(砂金掘り)

かつて砂金が出ることで有名だったといわれる佐々木の沢。



当時の地域を知るために、2019年に砂金掘り体験イベントを実施しました

③鷹栖町の未来をつくる会

住民ワークショップの取り組みの総まとめとして、特に重要な視点や課題を導き出すことを目的に、約50名の方に参加いただいて開催しました。

移住者や町内で活動する方の対談、福祉分野で先進的なまちづくりを進めている事例の講演なども企画し、学びを深めながらグループワークでの議論を進めました。

第1回



▶開催日

2019年1月30日

▶内容

- (1) 鷹栖町に関する基礎的な情報の共有
- (2) 町民対談
(登壇者) 大河原七生氏、佐川美由紀氏、平林悠氏
- (3) ワークショップ
「鷹栖町での暮らしと仕事」

第2回



▶開催日

2019年2月13日

▶内容

- (1) 鼎談「まちづくりは自分ごと」
波瀾幸敏氏(鷹栖町、社会福祉法人さつき会)
大原裕介氏(当別町、社会福祉法人ゆうゆう)
- (2) ワークショップ
「10年後の鷹栖町をこんなまちに! ~今から私にできること~」

第3回



▶開催日

2019年3月20日

▶内容

- (1) 話題提供「自分ごとのまちづくりの進め方」
五十嵐智嘉子氏(札幌市、北海道総合研究調査会)
- (2) ワークショップ
「10年後の鷹栖町~目指す姿のキャッチフレーズを考える~」

計3回にわたり、ワークショップを重ねた結果、「10年後の鷹栖町の将来像を考えるにあたり、外すことのできないキーワード」及び「将来像を表現するキャッチフレーズ」が次の通り提示されました。

将来像を考えるときに外すことのできないキーワード

- みんなもれなく幸せになれる
- 住民同士のつながり・関係性の深さ
- 創造する
- あったかすな優しい住民性
- 持続性がある豊かな産業
- 魅力（潜在的な魅力をもっと掘りおこそう）
- 生き生き活躍できる場がある
- わくわく・新しいものを築いていける
- 子育て環境が充実・戻ってきたいと思えるまち
- 農業で稼ぐ、安全な食がある
- 多世代、多様な人が活躍できる（障がいや高齢であっても特技を生かす）
- 助け合い（住民自らまちづくりをする、参加、住民力、つながり、支え合い）
- コーディネーショントレーニングで人間力を高める
- オープンマインド、多世代、移住者、多様性を大切にするまち
- 笑いのあふれるまち
- 「自然」という財産の利活用
- よりあったかすを目指したい
- 子ども
- 未開な資源（ヒト・モノ）の発見と活用
- 元気（健康、快適に過ごす）
- いけてる鷹栖・子どもが戻ってきたくなる
- 現在の鷹栖の良いところを持続したい
- 歳を重ねても暮らし続けたい
- 働き続けられる、どの世代も輝き活躍できるまち

「10年後の鷹栖町」をイメージしたキャッチフレーズ

- 毎日帰りたいたい つか帰りたいたい My Home Town あったかす
- わくわくを自給できるまちづくり (おすそわけ)
- ルーバンあったかす
- こんなところにあったかす すごいマチ
- もれなく幸せ♡あったかす
- たかすびと 総活躍！
- たかすびと プライド
- おかえりなさい あっ！ と home みんなで創る 米 たかす

